

7月FOMCは金利据え置きも、3名が利上げ票を投じタカ派姿勢は堅持

- 7月FOMCは5会合連続の金利据え置きを決定
- 3名の地区連銀総裁が利上げ求め反対票を投じる
- 政策材料無し、今後は8月ジャクソンホール会合に注目

■ 政策金利据え置きも、物価警戒姿勢は鮮明

7月28-29日の米連邦公開市場委員会(FOMC)では、5会合連続での政策金利(3.50-3.75%)据え置きを9対3の賛成多数で決定。従来よりタカ派(金融引き締めに向き)と考えられてきたハマック氏、カシュカリ氏、ローガン氏の3名が反対票(0.25%利上げ)を投じました。また、声明文はほぼ変わらず、高いインフレ率の一因を中東情勢に求めた上で、物価目標達成を再表明しました(図1)。

本会合前、市場は3割程度利上げの可能性を織り込んでいました。据え置きの決定を受けて年内の利上げ織り込みは後退も、複数の利上げ票と物価目標達成に向けた強い姿勢から、引き続き9月会合での利上げを織り込む向きが大勢(6割程度)となっています(図2)。また、政策金利の影響を受けやすい短期金利は低下。他方、物価高が長引くとの見方から長期金利は上昇しました(図3)。

■ 追加材料ほぼ無し、次回会合も手探り続く

会合後の記者会見でウォーシュ米連邦準備制度理事会(FRB)議長は、2%の物価目標達成に向けて「行動することを読められない」とし、利上げの選択肢を排除しない一方で、政策の根拠や見通しに関する追加の材料は与えませんでした。また、ガイダンスではなく経済指標に応じた金利の変動を歓迎。前会合以降の名目・実質両金利の上昇自体が実質的に金融環境を引き締めた可能性について示唆しました。市場の利上げ織り込みが、結果として据え置き判断を支援したとも考えられます。

7月公表値で見せた弱い雇用・物価指標後のトレンドを確認するまで、数会合は政策金利据え置きで様子を見る見込み。しかし中東情勢沈静化の兆しが見られない中で、強い企業景況感に加え急速な期待インフレ率上昇や雇用改善が見られた場合は利上げも辞さないでしょう。

今後の政策材料は、議事要旨に加えて8月末に開催されるジャクソンホール会合です。同議長は、政策検証中の作業部会と対話した上で「重要な問題」を提起するとコメント。引き続き金利ガイダンスは示さないと考えられるものの、バランスシートやAIの影響など作業部会の一部テーマについて示唆が得られる見込みです。(牧)

【図1】 声明文の雇用・物価見通しは変更無し

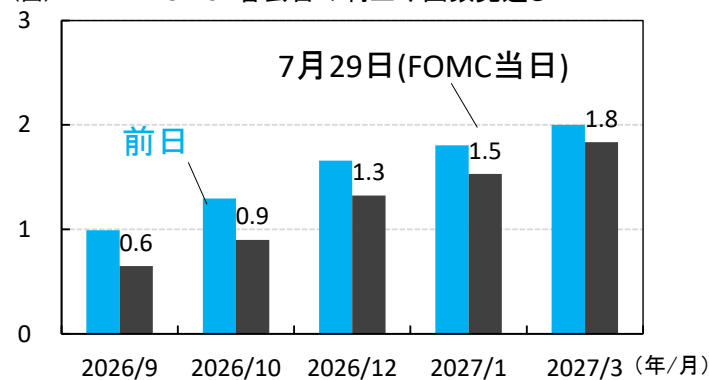
米国 FOMC声明文 全文比較

	前回(2026年6月)	今回(2026年7月)
決議	・連邦公開市場委員会(FOMC)は、以下の声明を12対0の全会一致で承認した	・連邦公開市場委員会(FOMC)は、以下の声明を9対3の賛成多数で承認した ・金融政策決定に反対票を投じたのはハマック氏、カシュカリ氏、ローガン氏の3名であり、今回合でFF金利の誘導目標レンジを0.25%引き上げるべきと考えていた
政策決定	・委員会は、連邦準備制度の二大使命を支持するため、FF金利の目標レンジを3.5%から3.75%に据え置くことを決定した ・委員会はまた、銀行システムにおける潤沢な準備預金を維持する政策を再確認した	・委員会は、連邦準備制度の二大使命を支持するため、FF金利の目標レンジを3.5%から3.75%に据え置くことを決定した ・委員会はまた、銀行システムにおける潤沢な準備預金を維持する政策を継続している
景気	・経済活動は、中東での紛争に起因する不確実性の高まりにもかかわらず、堅調なペースで拡大している ・生産性の伸びと設備投資は力強い	・経済活動は、中東での紛争に起因する不確実性の高まりにもかかわらず、堅調なペースで拡大している ・生産性の伸びと設備投資は力強い
雇用	・雇用増加は労働力の伸びと歩調を合わせており、失業率もほとんど変化していない	・雇用増加は労働力の伸びと歩調を合わせており、失業率もほとんど変化していない
物価	・インフレ率は委員会の2%目標と比べて依然として高い水準にあり、その一因はエネルギー分野を含む特定分野で価格上昇をもたらした供給ショックにある ・委員会は物価安定を実現する方針である	・インフレ率は委員会の2%目標と比べて依然として高い水準にあり、その一因はエネルギー分野を含む特定分野で価格上昇をもたらした供給ショックにある ・委員会は物価安定を実現する方針である

出所) FOMCより三菱UFJアセットマネジメント作成

【図2】 市場は依然年内1回以上の利上げを見込む

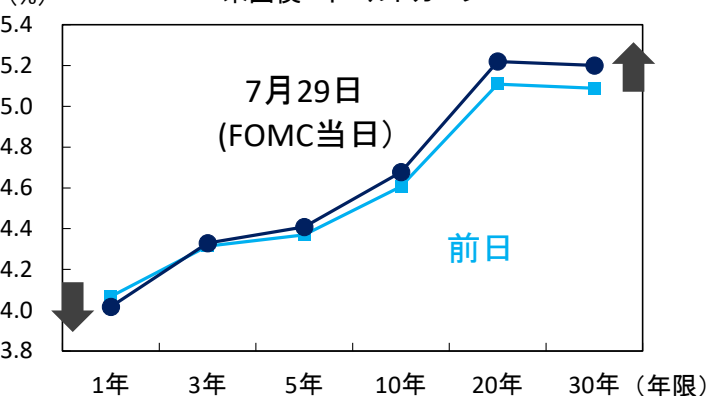
(回) FOMC 各会合の利上げ回数見通し



出所) Bloombergより三菱UFJアセットマネジメント作成

【図3】 短期金利は低下も、物価高警戒強く長期金利は上昇

(%) 米国債 イールドカーブ



出所) Bloombergより三菱UFJアセットマネジメント作成

本資料に関してご留意頂きたい事項

- 本資料は、投資環境等に関する情報提供のために三菱UFJアセットマネジメントが作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。販売会社が投資勧誘に使用することを想定して作成したものではありません。
- 本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 各ページのグラフ・データ等は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮しておりません。
- 本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の三菱UFJアセットマネジメント ストラテジック・リサーチ部リサーチグループの見解です。また、三菱UFJアセットマネジメントが設定・運用する各ファンドにおける投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。



三菱UFJアセットマネジメント

三菱UFJアセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号
加入協会：一般社団法人資産運用業協会